

---

# えんぴい！！

ハサミ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

えんびい！！

### 【コード】

N8909B

### 【作者名】

ハサミ

### 【あらすじ】

世界一嫉妬深い女神様に惚れられた世界一不幸な少年のお話。

## プロローグ

「あなたの器では私の愛は受け止められない」

そう言いながら、白い衣を羽織った美しい女性が剣を片手に男に迫っていく。

まさに人殺しが行われる瞬間だ。

しかし、女性はひどく落ち着いた表情をしている。

「.....」

男性の方も慌てた様子も無く、ただ女性の顔を見つめている。

「私はあなたを殺して、次の恋に踏み出すの」

剣は振り上げられる。

その剣は皮肉にも、神が海を切り開き大陸を生み出した時に使われたと言われる聖剣。

男性は覚悟を決めたのか、ゆっくりと目を閉じ、胸の前で手を組む。

「あら、私の幸運を祈ってくれてるの？」

振り下ろされようとしていた剣が止まる。

その時、女性は一瞬ほくそ笑んだ様に見えた。

「神様が祈ってくれるなら安心ね」

剣は振り下ろされた。

剣は男性を真つ二つに切り裂いた。  
しかし、血は一滴も流れていない。

女性は死体を見て泣き出すことも、顔色を変えることもない。  
ただ嬉しそうな顔をして、死体を見つめている。

「安心して、あなたの大好きな地上は私が管理するから。あなたよりも私に見合う、最高の男を作るから」

少しの間男性の死体を見つめていたかと思うと、突然女性は手に持った聖剣を地上に向けて投げ捨てた。

すると、剣は音も立てずに地上の大半を占める大陸の中央に突き刺さった。

「あなたは優しい人。だけどね、いい男は戦いが無くちゃ産まれな  
いの」

突き刺さった剣は大きな力は大きな力を持っており、今まで争い  
ことの無かった地上の人々は力を求めて争い始めた。

それは、長い長い戦争の幕を開け。

女性はそれを嬉しそうに見守る、自分に見合う男が出来ると信じて。

「皆、私を求めなさい。そして、私を夢中にさせて」

女神様の恋、それが世界の全て。



## プロローグ（後書き）

小説始めて書きます。

温かい目で見守ってください。

あと、できれば感想の方も頂けたら嬉しいです。

## 不幸な僕。 1

僕には産まれたときから2つの体質がある。

1つは不幸体質。

今僕は町外れで一人で暮らしているのだが、その理由も僕の不幸が周りをも不幸にするというもの。

確かに僕が両親と暮らしている時は、不審火5回、家に雷が落ちた事3回、突然の地盤沈下2回、突然の爆発1回など、という周りに迷惑をかけまくりだった。

でも、一人暮らしを始めてからは雷が落ちる事も、地盤沈下も無くなり、割と一般人なみの不幸しか無くなったので、最近はやっと幸せを感じている。

2つ目は、やたら女性に嫌われる体質。

何かキモい、何か変態、生理的にダメは当たり前。

1才から80才まで、ましてや動物や魔物まで性別がメスだった全て関係無く僕を嫌う。

だから、今まで母親を含めても女性と会話したことなんか一度も無い。

こんな僕に訪れた幸運、それは2丁の魔銃を拾ったこと。

その2丁の魔銃があれば魔物や盗賊なんて恐くない。

そう、僕はこの町を出れる。

「エルト、旅に出るとは正気か!？」

60才くらいの白髪混じりの男が、息を荒げて迫ってくる。

この人は町の長老さん、両親にも見捨てられた僕に唯一優しくしてくれる人。

だから、僕は長老さんだけに旅に出るのを伝えに来た。

「うん！」

「魔物や盗賊もでるんだぞ！」

魔物とは戦争の兵器として造られた物が野生化し人を襲うようになったもの。

盗賊とは職の無い荒くれ者が集団となり、山や街道などに居着いたもの。

2つとも100年前の戦争の傷痕。

その2つがあるから、今だ人々が剣を棄てられないし町を出れない。

「僕にはボルトとポルタがいるから」

ポルトとポルタとは、僕の2丁の魔銃の名前。

僕は魔銃を拾った時から今日のために2年間練習し続けた。

そのおかげで、この2丁の魔銃があれば僕はどんな敵にでも勝てる自信がある。

「しかし、お前は体格だつて良い方じゃないんだし、なにより運が全く無いじゃないか」

息を荒げ僕の事を心配してくれている長老さんに、思わず目頭が熱くなる。

僕は改めて長老さんの優しさを噛み締める。

「僕は、僕の居場所を必ず見つけだしますから」

長老さんは僕に良くしてくれた。

いつ捨てらるかビクビクしていた僕のために、町の外れに家を作ってくれたけど、町の皆はそれでも僕のことを嫌っている。

僕の居場所はここではない。

「長老さんまで不幸になっちゃうから、僕はもう行くね」

感極まり涙が出てきてしまったので、僕は振り返り家を出ようとする。

「死ぬんじゃないぞ」

「僕は死にませんよ!」

僕はそのまま長老さんの家を後にし、町に出る。

町の人は僕が来ているのを知って一人も外に出ておらず、町には風の音以外しない。

「見送りは風だけか・・・」

いいさ、僕が悲しいだけで皆が不幸にならないならそれで。

町の門を目指してゆっくり歩き出す。

この町に良い思い出はほとんど無いけど、いざ町を出るとなると少し寂しい気もする。

こんな僕でも、やっぱり生まれ育った土地に愛着があるんだ。

僕は目からとめどなく出てくる涙をぬぐう。

僕が町を出たら皆喜ぶんだろうな。

まあいいか、皆が喜んでくれるなら。

「みんな、じゃあね」

僕は町の門を開け、新しい土地に向けて歩き出す。

女神様

女神様が本当にいるのなら

僕に

僕だけの

誰にも迷惑かけない土地を与えてください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8909b/>

---

えんびい！！

2010年10月10日11時18分発行